Memorial Sloan Kettering Cancer Center

患者様と介護者様のための教育支援

輸血について

ここでは、輸血前、輸血中、輸血後に期待されることについて説明します。 輸血とは、血液や血球を体内に入れることです。 がんやがん治療が血液に与える影響により、輸血が必要になることがあります。

宗教上の理由やその他の理由で、輸血を望まない方もいます。 治療を拒否することは、常にみなさんの権利です。 医療従事者が輸血を勧めるのは、それが必要だと思われる場合だけです。 手術の種類によっては、大量の血液を失うことがあります。 この血液を補充しなければ、死に至ることもあります。

血液について

血液は血漿、赤血球、血小板、白血球で構成されています。

- **血漿は**血液の液体成分です。 血液細胞を保持します。 血液がうまく凝固しない場合は、血漿輸血が必要になることもあります。
- **赤血球**は酸素を体のあらゆる部分に運びます。 赤血球数が少ない場合（貧血）、赤血球の輸血が必要になることがあります。 そうすることで、気分が良くなります。
- **血小板**は血栓を形成し、出血を止めるのに役立ちます。 血小

板数が少ない場合（血小板減少症）、血小板輸血が必要になることがあります。 そうすることで、手術や処置中の出血を止めたり、出血しすぎないようにしたりするのに役立ちます。

- **白血球**は感染症と闘います。 白血球輸血はまれで、非常に特殊な状況でのみ行われます。

献血について

現在、代替血液はありません。 輸血される血液や血球は、通常、他の人から提供されたものです。

自分の血液を提供することで、それを保存しておき、必要なときに自分に戻すことができる場合もあります。 これは自家献血と呼ばれます。 詳細については、*Being Your Own Blood Donor* (www.mskcc.org/cancer-care/patient-education/being-your-own-blood-donor)をお読みください。

提供された血液は、その血液型が何型か検査されます。 また、以下のような検査も行われます。

- 梅毒
- B型肝炎とC型肝炎
- HIV
- 非常にまれな白血病に関連するウイルス
- ウエストナイル・ウイルス
- *クルーズ・トリパノソーマ*（シャーガス病の原因となる寄生

虫）

- ジカウイルス
- 細菌（血小板のみ）

検査でこれらのいずれかが見つかった場合、血液は捨てられます。

指示献血

指示献血とは、誰かがあなたのために特別に血液や血球を提供することです。 指示献血は、他の寄付と同様に検査されます。 血液検査で上記のいずれかが陽性となった場合は、ドナーの方に個人的にお知らせします。

指示献血で提供された赤血球は25日間保存されます。 指示献血で提供された血小板は4日間保存されます。 その後、その寄付は他の人に譲られることもあります。 また、ドナーの血液型があなたの血液型と一致しない場合は、他の人に提供されます。

輸血を受ける前に

輸血の前に、血液型とスクリーニングと呼ばれる検査であなたの血液型を調べます。 血液銀行では検査処理に2〜4時間かかることがあります。 予想外の結果が出た場合は、もっと時間がかかるかもしれません。 医療従事者は、あなたの血液型とスクリーニングの結果を用いて、輸血の際に得られる血液や血球があなたにとって安全であることを確認します。

医療従事者は、輸血を受けることに伴うリスクについても説明し

ます。 輸血中や輸血後にアレルギー反応を起こす可能性はごくわずかです。 最も一般的な反応は、38°C（100.4 °F）の発熱、悪寒、じんましんです。 これらは薬で治療することができます。 輸血反応が生命を脅かすことはほとんどありません。

輸血の間

すべての準備が整ったら、看護師が静脈に挿入します。

- トンネル型胸部カテーテルや末梢挿入型中心静脈カテーテル（PICCライン）などの中心静脈カテーテル（CVC）をする場合は、看護師が輸血に使用する可能性が高くあります。
- ポート（メディポートと呼ばれることもある）が埋め込まれている場合は、看護師が輸血に使用します。 これは化学療法と同じ種類の針です。
- ポートやCVCが埋め込まれていない場合は、看護師が静脈のいずれかに静脈（IV）ラインを留置します。

静脈に挿入した後、看護師が輸血を開始します。 輸血は痛くありません。

赤血球1単位の輸血には通常90分から4時間かかります。 血小板1単位の輸血には約30分から90分かかります。 輸血中は看護師が注意深く監視します。

輸血のあと

腕の静脈から輸血を受けた場合、針を刺した部分にあざや炎症ができることがあります。

輸血は、輸血後2日までアレルギー反応を引き起こす可能性があります。 以下のような反応が見られた場合は、医療従事者に連絡してください。

医療従事者に連絡すべき場合

以下の場合は、医療従事者に連絡してください。

- 38° C（100.4° F）以上の発熱
- 悪寒
- 顔が赤くなり、温かくなる
- 蕁麻疹、発疹、かゆみ
- 点滴を受けた部位にひどい打撲や炎症がある
- 呼吸困難や息切れ
- 腰痛
- 吐き気（吐きそうになる）や嘔吐（吐く）
- 脱力感や失神
- 濃い色の尿（おしっこ）

胸部が痛くなったら、すぐに救急車（911）を呼んでください。

ご質問やご不明な点があるときは、医療従事者にお問い合わせください。 ケアチームのメンバーが月曜日から金曜日まで対応します。 午前9時 から 午後5時 これらの診療時間外の場合は、メッセージを残すか、MSKの他の医療機関にご相談ください。 医師か看護師が常時、待機しています。 かかりつけの医療機関への連絡方法がわからない場合は、
212-639-2000にお問い合わせください。

更なる資料については、www.mskcc.org/peにアクセスして、仮想図書館で検索してください。

About Your Blood Transfusion - Last updated on December 26, 2023
著作権所有者 Memorial Sloan Kettering Cancer Centerにより、無断転載は禁じられています。